

歯科専だより

山形美容専門学校と連携協定を締結

平成30年7月24日(火)午前11時より本校において、山形美容専門学校と山形歯科専門学校の相互交流推進に向けた連携協定を結んだ。

山形美容専門学校から高橋朝子校長始め、齋藤明子教頭、新田哲也教務主任の3名にご来校いただき、山形歯科専門学校から大貫英一校長、奥山博和副校長ほか3名の職員が出席し連携協定締結式が執り行われた。

奥山副校長の開式で始まり、両校の出席者が紹介された。

代表者挨拶として、高橋校長は「10年前に、当時の校長同士により文化交流学習に関する協定が交わされたことがあった。そこに今日の原型が既にあったのではないかと考えると、これまでの10年間の重みを感じる。当初は、同世代の学生がレクリエーション的な感じで行うものとして軽く考えていたが、今改めて思うことは、来校いただいたときにはお客様と思いながら、貴校では、患者さんと思いながら接することで、普段の授業や実習と同等

のものになり得る大切な教育交流である。美容と歯科医療という違いはあるが、人間の明るく元気な生活を支える人材の育成という同様の使命がある。また、同じ専門学校として国家試験合格という目標へ向かってハードルを越えなければならない。今後に向けて、授業を通じて交流を深め、さらにお互いに励まし合いながら学んでいってほしい。」と述べられた。

一方、大貫校長は「10年間に渡り、それぞれの思いの中で交流を行ってきたが、大変内容があり、達成感のある教育活動を積み重ねてきたのではないかと思う。今後は内容的にも、学生の充足感という意味でも、さらに発展させていくことができれば素晴らしいと思っている。両校の学生は、専門性の高い国家資格を目指す学びを続けている。それぞれ人間生活の一番根幹に関わることを学ぼうとしている。我々の生活に安定や豊かさを提供し、明るく健康的な生活を支えていこうとす



山形美容専門学校高橋朝子校長と本校大貫校長がしっかりと握手を交わす



山形美容専門学校3名、本校5名和やかな記念撮影

る共通点がある。加えて、コミュニケーションがいかに大切なものか、という仕事の特色も同じだ。両校の学生が交流することは、必ずやこれからの学びや職業生活の財産になる。今、超高齢社会が進行する中で、多職種連携というキーワードが示すように、ひとつの目標に向かいながら協働して仕事をするのが大切になる。我々の連携協定締結というのはそのトレーニングの場、心を培う場を提供することである。学生が楽しく、また充実した交流が出来るように、教える側としてしっかり考えながらやっていくことが肝要である。」と述べた。

これからも、学生の実習による教育交流に双方がそれぞれの資源を活用しながら、連携・協力を深めていきたい。

(山形歯科専門学校事務長 鈴木 淳 記)

山形県歯科医師会立山形歯科専門学校と学校法人薬師の杜学園山形美容専門学校との連携協定書

山形県歯科医師会立山形歯科専門学校と学校法人薬師の杜学園山形美容専門学校とは、実習等による相互の教育交流の推進と協力のため、ここに連携協定（以下、「協定」という。）を締結する。

（目的）

本協定は、実習等による相互の教育交流に関し、それぞれの教育資源を活用し、連携・協力することを目的とする。

（連携事項）

- 1) 歯科衛生士・美容師資格取得に向けた相互の実習実施に関する事項
- 2) その他、双方が必要と認めた事項

（協定に係わる部署）

本協定の実施については、担当部署において相互に連携・協力を図り、各事項を円滑に推進するものとする。

（留意点）

- 1) 実習日は、年度当初において、両校の担当部署が協議し、日程等を定めるものとする。
- 2) 実施に際して事故等が発生した場合には、速やかに連絡を取り合う。また、その後の措置について、両者協議の上これを決定する。

（情報の保護）

本協定に基づく連携・協力にあたり、事前に相手方の同意を得た情報以外の情報を第三者に対して開示または漏洩してはならない。

（有効期間）

本協定の有効期間は、締結の日から3年間とする。ただし、いずれか一方が期間満了の3ヶ月前までに、書面により効力の停止もしくは終了の意志を申し出ない場合は、本協定は自動的に更新されるものとする。

（その他）

本協定に定めのない事項、または、本協定に疑義が生じた場合は、双方が協議し決定するものとする。

平成30年7月24日

山形歯科専門学校
校長

山形美容専門学校
校長

大貫英一 高橋朝子

東北文教大学との交流事業

平成30年7月26日(木)、東北文教大学において、同短期大学部の人間福祉学科2学年、子ども学科2学年、本校歯科衛生士科3学年が一堂に集い、昨年に引き続き2度目の交流事業を行った。

第1部は、本校の大貫英一校長と東北文教大学の鬼武一夫学長より学校代表の挨拶があり、その後、各科目担当の専任教員がそれぞれの演習に関わる講義を行った。

第2部は、各科2名程度で6人前後のグループを作り、人間福祉学科の学生からは、「椅子から車椅子への移乗方法」について、子ども学科の学生からは、「子どもや障がい児とのコミュニケーション・接し方・遊び方」についてそれぞれ学んだ。歯科衛生士を目指す

本校の学生たちは、「安全な口腔ケアを実施するための方法」について、幼児と高齢者の口腔の特徴や、実際の口腔ケアの方法を、顎模型や部分床義歯、さまざまな口腔ケアグッズを用いて、他学科の学生にわかりやすく伝えた。他科の学生たちも保育園や高齢者施設へ実習に出て、口腔ケアを行う機会があるとのこと、皆真剣に耳を傾けていた。

それぞれが、今まで学んできた専門的な知識や技術を、自分達の積み重ねてきた経験と併せて、細部にわたって教え合っていたようである。

3つの学科ともに、人と関わる職業に就く点においては共通するため、知識や技術以外にも、相手に対するコミュニケーション力や、

思いやりの気持ちを持つなどの対象者への配慮する能力も必要になるが、学生たちは、自分から進んで対話を行い、大変素晴らしい交流事業となった。

今回は、東北文教大学で行われたが、9月には、人間福祉学科1学年の学生を本校に招いて交流事業を行う予定である。これら相互の交流により、学生個々の実践力向上とともに、幅広い視野の獲得と多職種連携についての理解を深めてほしいと願う。

以下、学生の感想を記す。

(教務主任 結城 泉 記)

第3学年 鍋倉 玲実

参加して楽しかった。東北文教大学の学生さんのデモンストレーションを見せていただ



デンタルフロスの使い方説明

き、声のかけ方やどんな点に注意をするのか改めて学ぶことができた。自分たちが持っている知識を少し共有するだけで、多職種とのつながりが理解できたので、これからも自分の立場では何ができるのかを考えて行きたい。

第3学年 荒井 晴香

自分が知らない知識を学べたし、自分が持っている知識を他学科の学生と共有できた。私が指導したときに「すごく勉強になった」とか「おばあちゃんに教える」と言ってくれたのがとてもうれしかった。

1人の患者さんにさまざまな職種の人に関わり、それぞれの情報を共有して患者さんにあったよりよい医療を提供するために他の職種との連携が必要だと思った。



椅子から車椅子へ移動